

| | | | | | | | |
|---|---|-----|-----|---------|-----------|-------|----------------|
| 授業科目(ナンバリング) | 介護過程ⅡB(介) (DB310) | | | 担当教員 | 久田 貴幸 | | |
| 展開方法 | 演習 | 単位数 | 1単位 | 開講年次・時期 | 3年・後期 | 必修・選択 | 選択 (介護必修) |
| 授業のねらい | | | | | | | アクティブ・ラーニングの類型 |
| 介護過程は、介護による利用者の生活支援活動に不可欠なものであり、専門的知識・技術の統合させた介護実践の全体像である。本授業では、「こころと身体」・「人間と社会」・「介護」領域で学んだ他の科目で学習した知識や技術を統合させ、本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得することをねらいとする。本演習を受講することで、本学のディプロマポリシーでも示されている、介護福祉士としての専門知識・技術を修得し、課題解決を図ることができるようになることもねらいとしたい。 | | | | | | | ④⑤⑦ |
| ホスピタリティを構成する能力 | 学生の授業における到達目標 | | | | 評価手段・方法 | 評価比率 | |
| 専門力 | 介護福祉士としての専門的な知識・技術を修得し、介護過程の手続きに則り、現在の課題に適応して解決するための介護過程として捉えてことができる | | | | 課題レポート | 50% | |
| 情報収集、分析力 | 介護に関連する情報を収集し、それらを分析する能力を身につけることができる | | | | 課題レポート | 20% | |
| コミュニケーション力 | ホスピタリティの精神に基づいて、他の人の意見を傾聴するとともに、介護過程に係る課題について自分の意見を明確にした上で、相互理解を図る議論に参加できる。 | | | | 事例検討、発表内容 | 10% | |
| 協働・課題解決力 | 様々な事例の課題に対して、課題を的確に把握し、他の人と協力して課題解決に向けた方策を立案し、実行する営みに寄与できる。 | | | | 事例検討、発表内容 | 20% | |
| 多様性理解力 | | | | | | | |
| 出 席 | | | | | 受験要件 | | |
| 合 計 | | | | | 100% | | |
| 評価基準及び評価手段・方法の補足説明 | | | | | | | |
| 課題レポート（70%）と事例検討、発表内容（30%）で評価する。 事例検討・発表内容（ディベート）は、演習への取り組み姿勢、演習の発言内容・適切性や正確性により総合的に評価する。課題レポートは演習事例を分析・統合し、介護計画を立案しその内容（アセスメント力・思考過程・判断根拠の提示・知識の統合力・表出された言語、語彙力・専門用語の使用の適正さなど）で評価をする。なお、発表内容に関しては、授業内にコメントの形でフィードバックを行う。 | | | | | | | |
| 授 業 の 概 要 | | | | | | | |
| 全てのケアは支援者が利用者にとって最善の「介護過程」を考えて展開されている。課題を正確に理解し、目標を定めて、様々な側面で支援を行う為の判断やその根拠についての思考を身につける。事例を用いてグループワークによる議論を行うことで介護の課題抽出の方法を学ぶ。また、様々な思考や判断の中で介護計画を作成し、プレゼンテーションを行い、その内容について指摘・指導を行いながら、介護過程の展開について学んでいく。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。 | | | | | | | |
| 教 科 書 ・ 参 考 書 | | | | | | | |
| 教科書：宮田重樹著『寝たきりをつくらない介護予防運動』 運動と医学の出版社 参考図書：最新 介護福祉士養成講座 『介護過程』 中央法規出版 指定図書：宮田重樹著『寝たきりをつくらない介護予防運動』 運動と医学の出版社 | | | | | | | |
| 授業外における学修及び学生に期待すること | | | | | | | |
| この授業は、実習Ⅰ・Ⅱ、介護総合演習Ⅰ・Ⅱなどで学んだ内容を統合した授業を展開することを前提に、グループワークや発表、レポート作成、ロールプレイなどで他の科目で学んだ知識や技術を統合し、介護を行うための思考過程を学ぶ展開としているため、授業において主体性と積極性を発揮することを期待する。 | | | | | | | |

| 回 | テーマ | 授業の内容 | 予習・復習 |
|----|-----------------------|--|---|
| 1 | <u>介護過程の意義と基礎的理解</u> | 介護過程についてこれまでの復習を行う (介護過程Ⅰ及び介護過程ⅡA) | 予習：資料準備まとめ |
| 2 | 課題内容の確認① | 実習中に実施したアセスメント資料の分析方法について学ぶ。 | 予習：発表用の資料準備 復習：発表資料指導内容の訂正の実施 |
| 3 | 課題内容の確認② | 実習中に実施したアセスメント資料の分析方法について学ぶ。 | 予習：アセスメント資料準備 復習：分析内容の確認 |
| 4 | <u>介護過程とチームアプローチ①</u> | ケアカンファレンスやサービス担当者会議について理解し、計画に反映させるプロセスを学ぶ。 | 予習：ケアカンファレンス・担当者会議について調べる 復習：プロセスの確認 |
| 5 | <u>介護過程とチームアプローチ②</u> | 居宅サービスにおけるチームアプローチについて考える。居宅サービス計画書と居宅サービスごとに行われる介護過程の関係性について学ぶ。 (実務家ゲストスピーカーによる講義の可能性あり) | 予習：訪問介護について調べる 復習：介護計画書の確認 |
| 6 | <u>介護過程とチームアプローチ③</u> | 介護過程で、他の専門職との連携がどのようになされているのかを理解する。 | 予習：他職種を調べる 復習：連携についてまとめる |
| 7 | <u>介護過程の展開の理解①</u> | 障害者の事例について取り上げる① (実務家ゲストスピーカーによる講義の可能性あり) | 予習：事例課題作成 復習：課題の指導内容へ訂正・反映 |
| 8 | <u>介護過程の展開の理解②</u> | 障害者の事例について取り上げる② 実務家ゲストスピーカーの講義を参考にグループワークを実施する。 | 予習：事例課題作成 復習：課題の指導内容へ訂正・反映 |
| 9 | <u>介護過程の展開の理解③</u> | 障害者の事例について取り上げる③ グループごとに検討した内容についてプレゼンテーションを行う。 | 予習：事例課題作成 復習：課題の指導内容へ訂正・反映 |
| 10 | <u>介護過程の展開の理解④</u> | 居宅で生活する高齢者の事例について取り上げる① (実務家ゲストスピーカーによる講義の可能性あり) | 予習：発表レジュメ作成 復習：課題の指導内容へ訂正・反映 |
| 11 | <u>介護過程の展開の理解⑤</u> | 居宅で生活する高齢者の事例について取り上げる② 実務家ゲストスピーカーの講義を参考にグループワークを実施する。 | 予習：発表レジュメ作成 復習：課題の指導内容へ訂正・反映 |
| 12 | <u>介護過程の展開の理解⑥</u> | 居宅で生活する高齢者の事例について取り上げる③ グループごとに検討した内容についてプレゼンテーションを行う。 | 予習：発表レジュメ作成 復習：課題の指導内容へ訂正・反映 |
| 13 | <u>介護過程の展開の理解⑦</u> | 自身の課題について確認を行う | 予習：自身の内容を確認する 復習：指摘内容について再確認 |
| 14 | 介護過程のアセスメントについて復習する | 介護過程における指標を確認して、次回の実習におけるアセスメント内容について考える | 予習：次回の実習課題確認 復習：課題内容の振り返り |
| 15 | 後期まとめ | 後期の内容について復習を行う | 予習：課題内容の確認 復習：授業内容の要約 |